

地域スポーツの 担い手として vol.2

ウィル大口スポーツクラブ

地域から生まれ、地域とともに成長してきたウィル大口スポーツクラブ。現在スタッフ数 22人、会員数 2,198人が在籍しています（5月現在）。

2回目の特集となる今回は、実際にウィル大口スポーツクラブで指導に当たっているコーチのみなさんにお話を伺いました。（敬称略）



稲垣洵也さん（サッカー）
コーチ歴15年（バイト4年／社会人11年）



船橋拓朗さん（サッカー）
コーチ歴23年（バイト4年／社会人19年）



前田五十鈴さん（水泳）
コーチ歴27年（バイト5年／社会人22年）

みなさんがウィル大口
のスタッフとなられた
経緯は？

船橋 私は、現在の事務局長（古田政一さん）と社会人チームと一緒にプレーしていました。ウィル大口設立のときに誘われ、大好きなサッカーと関われる仕事ということで迷いながらも引き受けました。当初は正直不安しかありませんでしたが（笑）。

前田 私は大学まで水泳選手として過ごし、卒業後は故あってシンガポールでスイミングコーチをしていました。シンガポールのスイミングクラブが閉鎖され、帰国したところで知り合いを通じてウィルに誘っていただきました。学生時代は体育教師を目指し、教員免許を取得。子どもを教えることが好きで、しかもこう見えて（マスターズのリレーで）世界記録保持者です！

稲垣 私の実体は体育教師を目指し、大学では教職課程を取っていました。一方でウィルになる前の尾張クラブのクラブ第5期生。古田コーチや船橋コーチに教わりました。大学生のときもウィルでコーチのアルバイト

をしつつ古田コーチや船橋コーチの入っていた社会人チームに入れてもらい、一緒にプレーしていました。

船橋 元教え子と一緒にプレーでき、感無量でしたよ！プレー中に「前へ出る！」とか指示されて、びっくりしましたけどね（笑）。

稲垣 ピッチ上では上下関係ありませんから！（笑）教職課程で教育実習まで行ったのですが、やはり好きなサッカーをメインに子どもたちと関わりたいと思い、サッカーのコーチを選びました。子どもが大好きで、子どもの成長に携われることにやりがいを感じています。



子どもたちを教える中で、大切にしていることや、やりがいを感じることはどんなことですか？

前田 最初泣いてばかりでお母さんから離れられなかった子が、スイミングを続けるうちにプールが大好きと言ってもらえるようになり、「あんなに泣いていたのに！」と笑い話のようになったときは、うれしいですね。お母さんから「先生のお陰」と言ってもらえたときは、コーチ冥利につきます。

学年が上がってくると、自己記録

を更新できるよう、時には鬼コーチになったりしますが、「あのときの厳しい練習があったから今の自分がある」と思ってもらえるよう、「叱る」と「怒る」の違いを意識して愛情をもって教えています。

稲垣 目標にしているのは、サッカーの技術だけでなく人間面でも成長できるよう導いていくこと。社会に出てからも通用するよう、自分で

考えて行動できるような子になってほしいと思っています。そのために、あえて質問を投げかけても答えを与えず、自分で気づくように導いています。

船橋 厳しく指導する中でも、大切にしてるのは信頼関係です。「自分

他のスポーツクラブにはない、ウィル大ロススポーツクラブの長所を教えてください。

稲垣 行政と連携しながら地域に根差した活動をしていることです。スタッフも大口町出身の者が多く、地域のことをよく理解していて、スタッフ同士でも住民の方とでもコミュニケーションをとりやすいです。このような特性を生かして、近年は地域に出張してうたごえ喫茶やのびのび健康体操教室、健康麻雀倶楽部を行っています。

船橋 行政と連携をとってはいませんが、あくまで運営は自主自立。経営面で自立するよう、常に世間のニーズに神経を研ぎ澄まし、流行を取り入れた講座を提案しています。

「のまない・すわない・かけない」

のために言ってくれている」と思ってもらえるように、日頃接する中で信頼関係を築いていけるよう努力しています。稲垣コーチのように、自分の教え子が大人になっても競技を続けていけると本当にうれしいです。

の健康麻雀倶楽部は、高齢者が楽しく頭の体操ができると東京ではやり出したのを取り入れたものです。



また、一昨年から始まったプログラミング教室は、小学校の学習指導要領の中で2020年にプログラミングの授業が必修化されることを受け、小中学校生向けに開講されたもの。女の子も頑張っていますよ！

前田 時代のニーズに敏感になるという意味では、中学の部活の指導者不足や先生方の時間外の負担が問題視される中で、私たちも何らかのお手伝いができるよう、部活のサポート教室としてバレーボール、サッ

カー、ソフトテニス教室を開催しています。近年どの学校でも部活が減少傾向。地域で助けることができると思います。

稲垣 「スポーツ、健康といえばウィル」と誰もが思ってもらえるような存在になりたいです。住民のみなさんが、何か健康のために始めてみたいと思った時に真っ先にウィルが浮かぶよう、情報発信していきたいと思っています。

取材にて

2回にわたり、ウィル大口スポーツクラブの成り立ちと変遷、そしてスタッフの皆さんの思いをお伝えしました。

単なる習い事や趣味の場としてだけでなく、地域の交流や生活のサポートの場としての役割を担うために設立されたスポーツクラブ。スタッフの皆さんのお話を伺い、今後ますますの発展を遂げていく未来の道筋が

見える気がしました。スタッフの皆さんの思いが実現し、いつか住民の憩いの場、健康づくりの場として、大口町だけでなく近隣市町のみんなが集い、交流できる素敵な場所となる日も近いかもしれません。

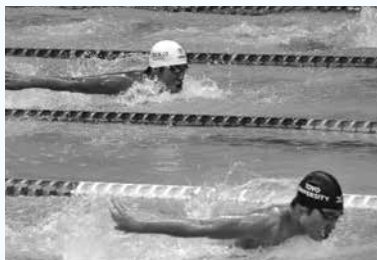
※今後、ウィルのお知らせが広報に掲載されますのでご覧ください。



▲スタッフのみなさん

全国で活躍した卒業生を紹介

ウィル大口スポーツクラブから全国へ！



▲白帽は村上さん 黒帽は萩野公介選手

村上 欣義さん

よし のり
平成8年生まれ（ウィル在籍 小学3年～中学3年）
インターハイ 400m個人メドレー 2位
犬山市城東中→豊川高校→中京大学



▲上段左から2番目が宮地さん

宮地 宏昂さん

平成6年生まれ（ウィル在籍 小学5年～中学3年）
第91回全国高校サッカー選手権大会出場
大口中学校→埼玉県正智深谷高等学校